

7試合ぶりにゴールを決め、大量得点の口火を切った原。今後もゴールの量産を目指す

(撮影・野澤俊介)

KOMAZAWA 駒澤大学A1 × 1 亜細亜大学

これぞ駒大サッカー格の違いを見せ付けた!

新戦力との相乗効果

初スタメンで1得点2アシスト。後半ロスタイムの交代後の秋田監督と交わした堅い握手がこの日の島田の活躍を物語っている。前節のデビュー戦でチームを救うアシストをした島田がこの試合大暴れした。「前の試合より緊張はあった」と漏らした島田だったがそれを感ぜさせない動きをみせた。

前半、駒大は苦戦をしいられる。「バタバタしてしまいミスからの危ない場面が多かった」と桑原が前半を振り返るように相手に主導権を握られてしまう。17分、島田の左からのグラウンダーのクロススを原が合わせて先制するも亜大にボールを支配され37分、同点ゴールを許し嫌なムードが流れる。だがそのムードを島田が変えた。前半ロスタイム、CKの流れで右に位置した島田がクロスをあげる。そのボールを桑原が頭であわせて勝ち越し点を演出した。さらに庄巻は57分、中央でボールを持ち亜大DFをかわし、持ち前のスピードで相手を引き離す。GKとの一対一を最後は落ち着いて決め、この一点が相手の戦意を喪失させた。その後、落ち着きを取り戻したDF陣が安定した守りで相手にチャンスを与えず、59分には塚本のCKを廣井が頭で合わせ、81分には塚本のロングパスに巻が落とす駒大らしい展開から赤嶺が追加点をあげ5-1で試合を終えた。

「いい時間で点が取れた」と筑城が言うようにこの日の駒大はいい時間帯で点をとることができた。その中で前半苦しい展開での2アシスト、後半相手を沈めた1ゴールをあげた島田の活躍は試合を大きく左右させた。

「島田がこのまま一気に昇ってほしい。いい戦力になるし、練習で頑張っている選手が試合に出てくればチームにも刺激になる」と原がいうように島田が活躍することによりチーム内の競争が激しくなりチーム力が向上すれば、今後のレギュラー争いが楽しみになる。

亜大相手にいい形で勝利を飾った駒大。次の明大戦もこの勢いで勝利を掴み上昇気流に乗ってそのまま首位を突っ走ってもらいたい。(林 雄大)